

シラバス

(令和5年度 2年生用)

シラバス（学習の手引き）の活用

- 科目のねらい、目標、講義計画（学習内容・評価方法）等が示されているので、確認して授業に臨むこと
- 1科目に複数の講師がいる場合、講義順は順不同になるため注意する
- 授業科目名とテキスト名は一致しない
- 何を目的に、何を学び、どう評価を受けるのかを知っておく
- 2年生は1・2年次の科目を取り残さないことが大切

令和5年度 33期生【 2年次に修得すべき授業科目と単位 】

単位修得数：24 単位

基礎分野 : 2 単位

専門基礎分野 : 3 単位

専門分野Ⅰ : 5 単位

専門分野Ⅱ : 10 単位

統合分野 : 4 単位

科目名	講師名	単位	科目名	講師名	単位
《 基礎分野 》			成人看護援助技術	須田	1 (30)
研究入門	高屋敷・椿慎	1 (30)	老年看護援助論	國井・林 西井	1 (30)
臨床英語	長野	1 (30)	老年看護援助技術	國井	1 (30)
《 専門基礎分野 》			小児看護援助論	風間・桑田	1 (30)
公衆衛生	田中	1 (15)	小児看護援助技術	桑田	1 (30)
社会福祉	松本	1 (30)	母性看護援助論	高屋敷	1 (30)
関係法規	本橋	1 (15)	母性看護援助技術	高屋敷	1 (30)
《 専門分野Ⅰ 》※実務経験者による講義と実習			精神看護援助論	堤・恩田	1 (30)
看護観演習Ⅰ (看護の概念)	國井・桑田	1 (30)	精神看護援助技術	堤・國井・原	1 (30)
臨床看護総論	椿	1 (30)	《 統合分野 》 ※実務経験者による講義		
コミュニケーション技術	國井・須田・椿 岡林・高橋	1 (30)	在宅看護概論	安藤・古海	1 (30)
基礎看護学実習		2 (90)	在宅看護援助論	安藤・田中亮	1 (30)
《 専門分野Ⅱ 》 ※実務経験者による講義			在宅看護援助技術	安藤・上之園 関根	1 (30)
成人看護援助論	須田・河崎	1 (30)	国際社会と災害看護	桑田・國井・高屋敷 外部講師	1 (30)

研究入門

1 単位 (30 時間 15 コマ)

高屋敷 留美子・椿 慎司・引率教員

【科目設定理由】

研究的視点を学び、化学的思考、論理的思考力を養う。

【授業のねらい】

1. 基礎的な研究課程を理解できる。
2. 研究的態度を養う。
3. 情報科学の基礎を学ぶ。

【講義計画】

高屋敷 1. 研究の役割・目的と意義

2. 看護研究方法・研究計画（*課題）
3. 論文の作成・発表・クリティーク

椿 4. Windows の基本操作

5. Word 文章の作成
6. Excel 文章の作成
7. データの収集と分析
8. Excel 関数の操作
9. " (正規分布)
10. Power Point スライドの作成
11. " (*パソコン課題)

12. 埼玉県看護学生研究発表会

13. "
14. " (*参加レポート)

15. 科目修了試験 (参加レポートの仕上げ)・まとめ (研究の評価)

【評価方法】

課題：100点 課題：25点
 パソコン課題：50点
 参加レポート：25点

【教材】

教科書：

【備考】

参考文献：黒田裕子著：看護研究；step by step, 第5版, 医学書院, 2017.

白佐俊憲著：パソコン・ワープロ時代の看護研究論文<実践サポートシリーズ>, 日総研, 1997.

上野 栄一ほか：楽くなる看護研究, メヂカルフレンド社, 2012.

松木 秀明ほか：医療系のための基礎情報科学, 東京図書, 2009.

臨床英語

1単位（30時間 15コマ）

長野 慎一

【科目設定理由】

英語を通して、国際感覚を養う一助とする。

【授業のねらい】

1. 看護に活用する用語を理解する。
2. 英会話を通して国際感覚を養う。

【講義計画】

1. 発音記号の読み方＋初歩的文法事項 (be 動詞、一般動詞、助動詞、現在完了)
2. 前回の授業より小テスト＋Lesson 1 (挨拶表現)
3. 前回の授業より小テスト＋Lesson 2 (個人歴)
4. 前回の授業より小テスト＋Lesson 3 (入院時オリエンテーション)
5. 前回の授業より小テスト＋Lesson 4 (日常生活)
6. 前回の授業より小テスト＋Lesson 5 (痛み)
7. 前回の授業より小テスト＋Lesson 6 (病歴)
8. 前回の授業より小テスト＋Lesson 7 (生命兆候)
9. 前回の授業より小テスト＋Lesson 8 (体位交換)
10. 予備日 (第2回～第9回までのまとめを兼ねる)
11. Lesson 9 (清拭) (テストなし)
12. 前回の授業より小テスト＋Lesson 10 (処置)
13. 前回の授業より小テスト＋Lesson 11 (検査)
14. 前回の授業より小テスト＋Lesson 12 (患者指導)
15. 期末テスト＋解説

*各回に医療に必要な語彙の解説 (語源や用途) と発音練習を行います。これも小テスト及び通常テストで出題します。

【評価方法】

- ・小テスト (40点) ＋期末テスト (60点) で評価。**小テストは持ち込み不可。通常テストは持ち込み可。**当然のことですが、小テストも相談は一切しないでください。不正行為扱いになります。
- ・小テストと期末テストは、いかなる理由があっても、実施日以外には受験できません。
- ・やむえない理由で小テストを受けられない場合は、別の課題を指定します。翌週の授業までにそれを提出した場合には、それをもって小テスト分の評価を行います。
- ・欠席はやむえない理由がある場合を除き減点対象 (テストの合計点から引く、1回につき－2点)。
- ・予習復習等際立った努力パフォーマンスが見られた場合には平常加点の可能性がある。

【教材】

教科書：臨床看護英語 第5版 医学書院
その他：クラス内において随時紹介予定

【備考】

- 扱う内容に対し講義回数は決して多くはないです。毎回授業内では積極的に発音して、音と意味の結びつきを貪欲に身体化 (音と同時に意味が直観的にわかるように) しましょう。
- できる限り予習復習時間を見つけて毎回の授業を補足する自分ノートを作成し、配布物管理も怠らないでください。各自のオリジナル教材を作成するつもりでまとめることを奨めます。
- 各授業時の対象箇所等補足資料は事前に配布予定です。
- 辞書は毎回携帯すること。英文読解・表現に自信がない場合には、例文解説の豊富な辞書 (大修館「ジーニアス英和辞典」等) を薦めます。
- 専門用語に関しては、医学書院の「看護英和辞典」他、種々の医学英和辞典も出ているのでそれらを参考にしたいと思います。
- 詳細注意はガイダンスにて伝達します。初回から必ず出席してください。
- 尚、状況により進度変更がなされる場合があります。

公衆衛生

1単位（15時間 7.5コマ）

田中 健一

【科目設定理由】

人間の健康をプライマリー・ヘルスケアの視点でとらえ、健康生活を守る社会システム、時代によって変わる人間をとりまく環境について学ぶ。

【授業のねらい】

1. 医療従事者という専門職に必要な公衆衛生の基礎能力を養い、知識、方法、制度、人材などさまざまな資源を広く適切に活用することによって、人間の健康に対する問題を現実に解決に導くための問題解決能力を培うことを目標とする。

【講義計画】

1. 公衆衛生の概念、健康と環境
2. 疫学、健康の指標
3. 感染症とその予防、食品保健と栄養
4. 生活環境の保全、医療・介護の保障制度
5. 地域保健、母子保健、学校保健
6. 生活習慣病、難病、ヘルスプロモーション
7. 精神保健、産業保健、まとめ
8. 科目修了試験

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：わかりやすい公衆衛生学 第4版
 <厚生指標> 国民衛生の動向 2020/2021
 その他：配布資料等

ヌーヴェルヒロカワ
 厚生労働統計協会

【備考】

社会福祉

1単位 (30時間 15コマ)

松本 昇

【科目設定理由】

保健医療福祉を総合的理解するために福祉の分野から人々の生活を理解し、看護に必要な機能・役割を認識する。

【授業のねらい】

1. 社会福祉の概念と変遷を学び、人々が地域社会で生活するためのサポートシステムと活動を理解する。

【講義計画】

1. 社会保障制度と社会福祉
2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向
3. 医療保険制度の構造と体系
4. 高齢者医療制度、保険診療のしくみ
5. 介護保険制度の創設の背景
6. 介護保険制度の概要
7. 所得保障
8. 低所得者問題と公的扶助制度
9. 生活保護制度のしくみ
10. 高齢者・障害者福祉
11. 児童家庭福祉
12. 社会福祉援助技術
13. 連携の重要性
14. 社会福祉の歴史

15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門基礎分野＞健康支援と社会保障制度 3
社会保障・社会福祉

医学書院

【備考】

関係法規

1 単位（15 時間 7.5 コマ）

本橋 千恵美

【科目設定理由】

保健医療福祉に関する法規を学び看護に活かす。人間の生死にかかわる看護職は法で守られ、法で裁かれることを熟知しておく必要がある。

【授業のねらい】

1. 法というものの考え方として、人間という存在をどのように観察し、その結果、人間の権利及び義務の存否をめぐる思考の展開を学ぶ。すなわち、人々の個人の尊厳と生命の尊重を旨とする看護師の法的責任と義務に関する法学を学ぶ。
2. 具体的には、次の総論、各論である。
 総論 法とは何か、基本的人権及び憲法というもの、刑事法・民事法・行政法領域の役割と異同
 各論 看護職に関する法規一群（関係法規：医療過誤・保健・医療・衛生・福祉など）

【講義計画】

1. 総論 法とは何か、基本的人権及び憲法というもの、刑事法・民事法・行政法
2. 各論 医療法規
 （医療従事者としての保健師助産師看護師法、病院等の開設と運営の医療法、など）
3. 〃 薬事法規
 （医薬品・医薬部外品・化粧品・医療用具、毒物・劇物、等）
4. 〃 保健衛生法規
 （保健所、母子、学校、精神保健福祉）
5. 〃 予防衛生法規、環境保全・公害関係法規、環境衛生法規
 （感染症、予防接種、検疫法）
6. 〃 福祉関係法規
 （健康・介護・年金の保険、生活保護・老人・身体障害などの福祉）
 〃 労働関係法規
 （労働条件、雇用保険、健康診断）
7. まとめ 医療過誤訴訟、関係法規の横断的理解
8. 科目修了試験（45 分）

【評価方法】

筆記試験：100 点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門基礎分野＞健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院

【備考】

- 講義について
 看護師国家試験の1年前すなわち2年次の関係法規なので、関係法規の基本を学ぶ。但し看護管理、看護業務と法の関係（実務）の解説講義も行う。なお、最初の講義のとき、医療問題の意識調査をアンケート形式で行い法学との接点（法の目的、役割）を具体的に提示する。
- 看護師国家試験について
 看護師国家試験の出題内容は、例えば、医療過誤、社会保障一般、看護師資格免許の業務範囲などに及ぶ。看護師国家試験の過去問題を配布するので確認すること。ただし、3年次の受験のときは受験年次の新しい問題集で過去問題を確認すること。

看護観演習Ⅰ（看護の概念） 1単位（30時間 15コマ） 演習

国井 直子・桑田 富美恵

【授業概要】

基礎看護学実習担当教員による授業を行い、基礎看護学実習前では、実習に活かすことができるよう「看護をする上で大切なこと」をテーマにラベルワークを行う。実習後では各実習グループが実習での学びや、ラベルワークでの学びをどう活かすことができたかを振り返る。(DP1,DP2,DP4,DP5)

【科目目標】

1. 実習体験、文献を通してヘンダーソンの主要概念を理解し、自己の看護観を深める一助とする。
2. 演習を通して、安全な看護の要件が理解できる。

【演習計画】

- | | | |
|-----|----|-------------------------|
| 実習前 | 国井 | 1. 基礎看護学実習オリエンテーション |
| | | 2. 看護観グループワーク（目的・内容・方法） |
| | | 3. グループ討議の実際 |
| | | 4. // |
| | | 5. // |
| | | 6. グループ討議内容 発表 |
| | | 7. 実習における医療安全 |
| | | 8. // 個人情報適切な取り扱い |
| 実習後 | 桑田 | 9. 基礎看護学実習振り返り（グループ討議） |
| | | 10. // |
| | | 11. // |
| | | 12. // |
| | | 13. // |
| | | 14. グループ討議内容 発表 |
| | | 15. // |

【評価方法】

実習前	グループ課題：看護観グループワーク	30点
	危険予知トレーニング	20点
実習後	グループ討議・発表	50点

- * 課題提出期限の遅延は減点とする。
- * 30時間を通じ、出席評価をする。
(減点方式とし、欠課1時間につき2点減点を合算する)

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践2＞ 医療安全
看護の基本となるもの 日本看護協会出版会

参考文献：看護論；定義およびその実践、研究、教育との関連 25年後の追記を添えて
日本看護協会出版会

【備考】

コミュニケーション技術

1 単位 (30 時間 15 コマ) 講義・演習

國井 直子・須田 由紀・椿 奈穂・岡林 温子・高橋 小絵

【授業概要】

コミュニケーションの構造と特性を学び、看護師臨床経験のある教員が看護師に求められる技術としてのコミュニケーションを示し、看護に不可欠なコミュニケーション能力を磨く。(DP1,DP2,DP4,DP5)

【科目目標】

1. 患者-看護師関係について学ぶことができる。
2. プロセスレコードを用いて場面の再構成の方法と意義を理解できる。
3. 対人関係プロセスとしてのコミュニケーションの理解を深め、看護師としての態度を学ぶことができる。
4. 患者教育について学ぶことができる。

【講義・演習計画】

椿	1. コミュニケーションの構造・患者-看護師関係について		
	2. インタビューの技術・演習	*1	
國井	3. プロセスレコードの意義・演習		
	4. "	*2	
岡林	5. マナー講座		
	6. "	*3	
須田	7. ヘンダーソンの看護における患者教育の意義・目的・方法		
	8. 患者教育の進め方 (グループワーク)		
	9. "		
	10. "		
	11. " (発表)	*4	
高橋	12. 音楽療法		
	13. "	*5	
	14. 講演会		
	15. "	*6	

【評価方法】

課題	*1 *2	各 10 点
	*3 *5 *6 (レポート 640~800 字)	各 10 点
	*4	50 点

課題の評価：提出期限 1 日遅延につき 2 点減点とする。
提出時間遅延の場合は 1 点減点とする。

【教材】

教科書：<系統看護学講座 専門分野> 基礎看護学 ② 基礎看護技術 I
<系統看護学講座 専門分野> 精神看護学 ② 精神看護の展開
看護の基本となるもの

医学書院
医学書院

日本看護協会出版会

その他：配布資料

成人看護援助論

1単位（30時間 15コマ）講義

須田 由紀・河崎 佳美

【授業概要】

成人看護臨床経験のある教員らが授業を行い、系統別疾患をもつ成人患者の病態の理解と看護に必要なアセスメント力を養い、看護につなげることができる。(DP3,DP4,DP5)

【科目目標】

1. 呼吸機能障害のある患者の看護について理解できる。
2. 循環機能障害のある患者の看護について理解できる。
3. 脳・神経機能障害のある患者の看護について理解できる。
4. 身体防御機能障害のある患者の看護について理解できる。
5. 内分泌・代謝機能障害のある患者の看護について理解できる。
6. 内部環境・排泄機能障害のある患者の看護について理解できる。

【講義計画】

- | | |
|----|-------------------------|
| 須田 | 1. 呼吸機能障害のある患者の看護 |
| | 2. 〃 |
| | 3. 〃 |
| | 4. 循環機能障害のある患者の看護 |
| | 5. 〃 |
| | 6. 〃 |
| | 7. 脳・神経系の障害のある患者の看護 |
| | 8. 〃 |
| | 9. 身体防御機能障害のある患者の看護 |
| | 10. 〃 |
| | 11. 内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 |
| | 12. 〃 |
| 河崎 | 13. 内部環境・排泄機能障害のある患者の看護 |
| | 14. 〃 |
| 全員 | 15. 科目修了試験・まとめ |

【評価】

筆記試験： 須田 85点
齊藤 15点

【教材】

教科書：	<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1>	成人看護学総論	医学書院
	<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2>	呼吸器	医学書院
	<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3>	循環器	医学書院
	<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4>	血液・造血器	医学書院
	<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6>	内分泌・代謝	医学書院
	<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7>	脳・神経	医学書院
	<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8>	腎・泌尿器	医学書院
	<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11>	アレルギー 膠原病 感染症	医学書院

【備考】

成人看護援助技術

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

須田 由紀

【授業概要】

成人看護学臨床経験のある教員が授業を行い、系統別疾患もつ成人患者の看護及び周手術期看護を講義形式で学ぶ。また、臨地実習前の事前学習として事例を用いた看護過程の展開を個人ワーク中心に行う。
(DP1,DP3,DP4,DP5)

【科目目標】

1. 栄養摂取・消化機能障害のある患者の看護について理解できる。
2. 運動機能障害のある患者の看護について理解できる。
3. 周手術期の看護について理解できる。
4. 成人期における健康問題を解決するために科学的思考を活用し、アセスメント能力を身につけることができる。

【講義計画】

- | | | |
|----|--|---------|
| 須田 | 1. 運動機能障害のある患者の看護
2. "
3. 栄養摂取・消化機能障害のある患者の看護
4. "
5. 周手術期看護
6. "
7. "
8. "
9. 看護過程の展開 事例：胃がんで胃全摘出術を受ける患者の看護（個人ワーク）
10. "
11. "
12. "
13. "
14. "

15. 科目修了試験・まとめ | ※個人課題提出 |
|----|--|---------|

【評価方法】

筆記試験：60点
看護過程：個人課題 40点

【教材】

教科書：<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5>	消化器	医学書院
<系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10>	運動器	医学書院
<系統看護学講座 別巻>	臨床外科看護総論	医学書院
<系統看護学講座 別巻>	臨床外科看護各論	医学書院
<系統看護学講座 別巻>	リハビリテーション看護	医学書院

【備考】

- ・課題の提出遅延については、減点とする。
- ・個人課題の提出がない場合、科目修了試験の受験資格は得られない。

老年看護援助技術

1 単位（30 時間 15 コマ）講義・演習

國井 直子

【授業概要】

老年看護学の臨床経験のある教員が授業を行い、ヘンダーソンの看護理論や ICF モデルの考え方をいながら疾患を持つ高齢者の看護アセスメントができる。また、高齢者に多い事例を検討することで今後の臨床看護場面に繋がられるよう学ぶ。(DP4,DP5, DP8)

【科目目標】

1. 健康障害のある高齢者の自立に向けた生活機能を理解できる。
2. 老年期における主要徴候及び治療にともなう看護を理解できる。
3. 高齢者の特性をふまえた基本的看護技術を習得できる。
4. 老年期に多い疾患の事例を通して、看護過程を展開できる能力を身につけることができる。

【講義計画】

1. 高齢者の呼吸・循環 アセスメントと看護
2. "
3. 高齢者の食生活 アセスメントと看護
4. "
5. 高齢者の排泄 アセスメントと看護
6. "
7. 高齢者の休息・活動 アセスメントと看護
8. "
9. 高齢者の清潔 アセスメントと看護
10. "
11. 高齢者のコミュニケーション アセスメントと看護
12. "
13. 社会参加
14. エンドオブライフケア

15. 科目修了試験（小論文）

【評価方法】

修了試験：40 点

1～12 回講義で看護過程の課題あり：10 点×6 回分 計 60 点

【教材】

教科書： <系統看護学講座 専門分野 > 老年看護学 医学書院
 <系統看護学講座 専門分野 > 老年看護 病態・疾患論 医学書院
 参考文献： <系統看護学講座 別巻 > リハビリテーション看護論 医学書院

【備考】

小児看護援助論

1 単位 (30 時間 15 コマ) 講義

風間 浩美・桑田 富美恵

【授業概要】

子どもに罹患しやすい疾患の病態・症状・診断・治療を学ぶ。看護師臨床経験のある教員から健康障害が子どもに及ぼす影響を伝え、健康障害のある子どもに対する看護の必要性を学ぶ。(DP1、DP4)

【科目目標】

1. 小児の罹患しやすい疾患の病態を理解できる。
2. 健康障害や入院が小児に及ぼす影響を理解し、看護に活かすことができる。

【講義計画】

- 風間
1. 新生児疾患 遺伝性疾患・染色体異常
 2. 代謝・内分泌疾患
 3. 消化器系疾患
 4. 血液・腫瘍疾患 眼疾患

- 桑田
5. 呼吸器系疾患 感染症
 6. 循環器系疾患
 7. 腎・泌尿器系疾患 アレルギー 免疫疾患
 8. 運動器疾患、神経・筋疾患皮膚疾患
 9. 症状の理解と看護 小児にみられる主な症状と看護
 10. " "
 11. " 新生児・低出生体重児
 12. " 精神疾患メンタルヘルス
 13. 健康問題、障害のある小児の発達段階に応じた看護
 14. "
 15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：風間 30点
 桑田 70点

【教材】

教科書： <系統看護学講座 専門分野Ⅱ> 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 <系統看護学講座 専門分野Ⅱ> 小児臨床看護各論 医学書院

【備考】

小児看護援助技術

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

桑田 富美恵

【授業概要】

さまざまな健康障害のある子どもに安全で安楽なケアを提供するための必要な看護技術を学ぶ。看護師臨床経験のある教員から一人ひとりの子どもの権利を擁護した援助の大切さを伝え、科学的根拠に裏付けされた看護援助の方法を学ぶ。(DP1、DP2、DP4、DP8)

【科目目標】

1. 健康障害や入院が小児に及ぼす影響を理解できる。
2. 小児の健康回復における家族の協力とその援助指導を理解できる。
3. 小児病棟における看護管理の必要性を理解できる。
4. 小児看護に必要な基本技術を習得できる。
5. 健康障害に応じた看護を理解できる。
6. 小児事例を通して看護過程を展開できる能力を身につける。

【講義計画】

1. 健康問題、障害の経過の特徴と看護の展開
2. 小児と家族に起こりやすい・直面しやすい状況と看護
3. //
4. //
5. //
6. //
7. 健康問題、障害のある小児に必要な看護技術
8. //
9. //
10. //
11. //
12. //
13. 小児看護過程の展開
14. //
15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験： 80点

看護過程： 20点

課題の提出が期日を過ぎた場合は減点対象とする。

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野Ⅱ＞ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

【備考】

母性看護援助論

1 単位（30 時間 15 コマ） 講義

高屋敷 留美子

【授業概要】

助産師臨床経験のある教員から妊娠・分娩の生理を学び、その逸脱の理解を助ける。

【科目目標】

1. 妊娠・分娩の生理を理解できる。
2. 妊娠・分娩時の看護を理解できる。
3. ハイリスクの状態にある妊産婦の看護を理解できる。

【講義計画】

1. 妊娠の生理（身体的、心理的、社会的特徴）
2. 〃
3. 妊娠期の看護
4. 〃
5. ハイリスク妊娠と妊娠の異常とその看護
6. 〃
7. 分娩の生理（身体的、心理的、社会的特徴）
8. 〃
9. 分娩期の看護
10. 〃
11. ハイリスク分娩と分娩の異常とその看護
12. 〃
13. 帝王切開術の看護
14. まとめ
15. 科目修了試験

【評価方法】

筆記試験 ： 100 点

【教材】

教科書 ： <系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学②> 母性看護学各論 医学書院
参考文献 ： <系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学①> 母性看護学概論 医学書院

【備考】

精神看護援助論

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

堤 静香・恩田 健実

【授業概要】

精神看護臨床経験のある教員から、精神疾患の病態生理と精神臨床看護学を学び、治療と看護の実際を理解する。また、対象が回復へ向かうプロセスについて理解する。(DP1、DP2、DP3、DP4、DP6、DP8)

【科目目標】

1. 精神臨床看護学について理解できる。
2. 主な精神疾患の治療と看護を理解できる。
3. 対象のストレングスに着目し、回復へ向かうプロセスについて理解できる
4. セルフヘルプグループについて理解できる。

【講義計画】

- 堤
1. 精神科薬物療法と看護
 2. 〃
 3. 回復（リカバリー）を支援する
 4. 安全を守る（自殺対策と支援）
 5. リエゾン精神看護とその活動
 6. 地域におけるケアと支援
 7. 〃
 8. 匿名アルコール依存者の会 体験談およびグループワーク
 9. 〃
- 恩田
10. 主な疾患と症状に対する援助・グループワーク
 11. 〃
 12. 〃
 13. 〃
 14. 〃
 15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：堤 65点

恩田 30点

レポート：匿名アルコール依存者の会 体験談およびグループワークより課題 5点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野Ⅱ＞ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院
 ＜系統看護学講座 専門分野Ⅱ＞ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院

院

【備考】

精神看護援助技術

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

堤 静香・國井 直子・原 祐子

【授業概要】

精神看護臨床経験のある教員が授業を行い、精神障害をもちながら地域で生活を送るための看護を理解する。また、社会復帰への援助を理解し看護過程の展開を学ぶ。臨床心理士から、カウンセリング技術の基礎を学ぶ。（DP1、DP2、DP4、DP6、DP8）

【科目目標】

1. 社会復帰を目指す精神障害者の援助を理解できる。
2. 対人関係の成立、発展の必要性を理解できる。
3. カウンセリング技術の基礎を理解できる。
4. 精神障害の事例を通して看護過程を展開できる能力を身につけることができる。

【講義計画】

- | | | |
|-------|----------------------------|-----------|
| 堤（國井） | 1. 地域で暮らす精神障害者への支援 | |
| | 2. " | （グループワーク） |
| | 3. 社会復帰を目指す患者への指導 | " |
| | 4. " | " |
| | 5. 精神科看護で用いる理論 | |
| | 6. 看護過程（退院を目指す統合失調患者の事例展開） | |
| | 7. " | |
| | 8. " | |
| | 9. " | |
| 原 | 10. カウンセリング技法 | |
| | 11. " | |
| | 12. " | |
| | 13. " | |
| | 14. " | |
| | 15. 科目修了試験・まとめ | |

【評価方法】 堤・國井 9コマ分出席点（1コマ2点、合計18点）

課題 12点

修了テスト 30点

原 40点（事前学習・参加・振り返り）

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野Ⅱ＞	精神看護学①	精神看護の基礎	医学書院
＜系統看護学講座 専門分野Ⅱ＞	精神看護学②	精神看護の展開	医学書院
看護の基本となるもの			日本看護協会出版会

【備考】

在宅看護概論

1単位（30時間 15コマ） 講義

古海 智子・安藤 真紀

【授業概要】

地域で働く保健師及び訪問看護師経験のある教員が授業を行い、地域・在宅看護が必要とされる社会情勢の変化を踏まえ、地域における保健・医療・福祉の動向から在宅看護の目的と役割を理解する。さらに、地域包括ケアシステムの中での看護師の役割を見出し、多職種連携・協働の意義と在宅療養生活を支える制度や社会資源を理解する。(DP1、DP4、DP5、DP6、DP8)

【科目目標】

1. 地域における保健医療福祉の動向から在宅看護の意義と必要性を理解できる。
2. 地域看護における在宅看護の目的と役割を理解できる。
3. 地域で療養する対象とその家族の特性とニーズを理解できる。
4. 在宅療養生活を支えている体制、社会資源を理解できる。

【講義計画】

- 安藤
1. 在宅看護の概要
 2. 在宅看護の目的と特徴
 3. 訪問看護制度にかかわる法律(1)
 4. 訪問看護制度にかかわる法律(2)
 5. 訪問看護制度にかかわる法律(3)
- 古海
6. 在宅看護と家族支援・権利保障について
 7. 在宅看護を取り巻く最近の状況（保健・福祉の動向）
 8. 在宅ケアとケアマネジメント
 9. 在宅療養を支援する仕組み（安全管理と健康危機管理）
 10. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携
 11. 在宅療養生活を支える社会資源
- 安藤
12. 在宅療養者の病期に応じた看護
 13. 生活の場に応じた看護の特徴と役割
 14. 事例を通して在宅支援を考える
 15. 科目修了試験

日常生活における安全と健康危機管理

【評価方法】

筆記試験：古海 40点
安藤 60点

【教材】

教科書：＜ 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕＞
地域・在宅看護の基盤

医学書院

参考文献：厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2022/2023
基礎からわかる地域・在宅看護論
ナースンググラフィカ 地域・在宅看護論①
地域療養を支えるケア メディカ出版

厚生統計協会
照林社**【備考】**

在宅看護援助技術

1単位（30時間 15コマ） 講義・演習

上之園 あけみ・関根めぐみ・安藤 真紀

【授業概要】

訪問看護師経験のある教員が授業を行い、終末期・医療依存度の高い療養者を支える看護の特徴を理解し、生活の場に合わせた援助の方法や工夫について学ぶ。

在宅で療養する神経難病をもつ療養者とその家族の看護を、事例を通して看護過程を展開できる能力を身につけることができる。(DP2、DP4、DP6、DP8)

【科目目標】

1. 医療依存度の高い在宅療養者を支える看護を理解できる。
2. 在宅における終末期の看護の特徴を理解できる。
3. 在宅看護の事例を通して看護過程を展開できる能力を身につけることができる。

【講義計画】

- | | |
|-----|--|
| 上之園 | 1. 口腔ケアの実際及び演習 |
| | 2. 〃 |
| 関根 | 3. 訪問看護の実際（訪問入浴） |
| | 4. 〃 |
| 安藤 | 5. 訪問看護の実際（小児） |
| | 6. 在宅生活を支えるコミュニケーション技術 |
| | 7. 在宅における医療管理を必要とする人の看護 |
| | 8. 在宅療養における終末期の看護 |
| | 9. 〃 |
| | 10. 在宅で療養する神経難病をもつ療養者への看護 |
| | 11. 事例による看護過程の展開（情報分類・関連図・アセスメント・長期目標設定まで） |
| | 12. 〃 |
| | 13. 〃 |
| | 14. 〃 |
| | 15. 科目修了試験 |

【評価方法】

レポート（口腔ケア）	10点	（原稿用紙600～800字）
レポート（ALSについて）	10点	（レポート用紙3枚以上）
看護過程	30点	
筆記試験	50点	

*看護過程の未提出は認めない

*レポート・看護過程の課題提出が1日遅れる毎に3点減点を合算する。

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2]＞
地域・在宅看護の実践

医学書院

【備考】

レポート・看護過程課題が未提出の場合、筆記試験の受験資格を認めないことがある。

国際社会と災害看護

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

桑田富美恵・國井直子・高屋敷 留美子・外部講師・埼玉西部広域消防局

【授業概要】

諸外国において活動する医療体験実践者から講義を受け、国際看護について考える機会とする。また、災害における看護師の役割の基礎と実践を学ぶとともに、地域の防災訓練に役割を持って参加する。(DP1,DP2,DP5,DP6,DP7,DP8)

【科目目標】

1. 看護における国際協力の状況を理解できる。
2. 災害及び災害看護に対する関心を高め、看護の役割を理解できる。
3. 災害及び災害看護に対する基礎的知識ならびに必要な技術を理解できる。

【講義計画】

外部講師	1. 国際社会（看護）について
	2. 〃
	3. 〃
桑田	4. 看護における国際協力の仕組み
	5. 災害の定義 救護組織の仕組み
	6. 災害における医療ニーズと看護ニーズ
高屋敷	7. 災害の体験（被災者の立場から）
國井	8. 災害現場におけるトリアージの原則・目的と1次トリアージから2次トリアージ、救護所の設置・活動について
	9. トリアージタックの使用方法和トリアージ判定模擬訓練 災害現場での応急処置（固定・被覆・止血）
消防署員	10. 救急蘇生法（AEDの取り扱い含む）・搬送法
	11. 〃
桑田・國井	12. 地域の防災訓練オリエンテーション・役割確認
	13. 地域の防災訓練の参加
	14. 〃
	15. 筆記試験

【評価方法】

筆記試験：桑田 25点 國井 20点

レポート：外部講師（原稿用紙600～800字） 5点

救急蘇生法・搬送法での学び（原稿用紙800字以上） 25点

地域の防災訓練参加の学び（原稿用紙800字以上） 25点

合計 100点

（評価方法は講義の変更があった場合は別の評価方法となる。）

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 統合分野＞災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院

【備考】

地域の防災訓練の欠席は認めない。

地域の防災訓練が中止となった場合は代替の講義となる。

消防署員の講義が都合により中止となった場合は代替の講義となる。

救急蘇生法・搬送法を欠席した場合は、後日消防署で行われる講習を受講する。